

平成 16～17 年度 学会発表

1) 今井一洋

The Development of a Sensitive Determination Method for Peptides and Proteins Utilizing Fluorescence Derivatization with SBD-F Combined with Liquid Chromatography.

The 7th Asian Conference on Analytical Sciences (2004 年 7 月 28、日香港)

2) 西丸宏、増田真裕美、三田智文、鳥海千冬、今井一洋

ベンゾセレナジアゾール骨格を有する新規親水性蛍光標識化試薬 DAABSeD-F の開発

日本分析化学会第 53 年会 (2004 年 9 月 2 日、千葉)

3) 今井一洋

A Novel Method for Proteomics Studies Utilizing Fluorescence-High Performance Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry.

XIth International Symposium on Luminescence Spectrometry in Biomedical and Environmental Analysis ?

Spectroscopic and Imaging Detection Techniques (2004 年 9 月 20 日、中国・北京)

4) 西丸宏、増田真裕美、三田智文、鳥海千冬、今井一洋

プロテオーム解析を指向した親水性蛍光標識化試薬 DAABSeD-F の開発

日本薬学会第 125 年会 (2005 年 3 月 29 日、東京)

5) 今井一洋

生体分析科学の新展開？モデル生物を用いた生命現象解明へのアプローチ

「FD-LC-MS を利用するプロテオーム解析法の開発と応用」

日本薬学会第 125 年会 (2005 年 3 月 30 日、東京)

6) 肥後大輔、今井一洋

蛍光誘導体化を利用したタンパク質の比較定量と同定、

第 16 回クロマトグラフィー科学会議 (2005 年 11 月 7 日、岐阜)

7) 今井一洋

A Couple of Reagents for Fluorescent Derivatization-Liquid Chromatographic Isolation-LC/MS/MS Identification Method of Proteins.

The 8th Asian Conference on Analytical Sciences (2005 年 10 月 17 日、台湾)

8) 今井一洋

Proposal of a fluorescent derivatization-liquid chromatographic isolation-LC/MS/MS identification method for proteomics studies.
International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (2005年12月18日、ハワイ)

9) 今井一洋

新規プロテオーム解析法 (FD-LC/MS/MS 法) について
第 16 回生物試料分析科学会大会 (教育講演、平成 18 年 2 月 25 日、東京)

10) 西丸宏、安井英子、高村則夫、今井一洋

プロテオーム解析法における二波長同時検出用新規蛍光試薬の開発
日本薬学会第 126 年会 (2006 年 3 月 28 日、仙台)

11) 大河原晋、神野透人、香川 (田中) 聡子、徳永裕司、安藤正典

SYBR Green Real-Time PCR によるマウス NMDA 受容体 Splice Variants の分別定量
フォーラム 2005 衛生薬学・環境トキシコロジー (2005 年 10 月 28 日、徳島)

12) 大河原晋、神野透人、香川 (田中) 聡子、徳永裕司、安藤正典

ヒト NMDA 受容体 Splice Variants の SYBR Green Real-Time PCR を用いた分別定量法の開発
日本薬学会第 126 年会 (2006 年 3 月 28 日、仙台)

13) 安井英子、和田征夫、高村則夫

Fischer インドール合成前駆体アリアルヒドラゾンの新規合成法
日本薬学会第 126 年会 (2006 年 3 月、仙台)

14) 津元裕樹、幸田光復、宮田直樹

ペプチド N 末端へのフラレン導入試薬の合成
第 50 回日本薬学会東海支部大会 (2004 年 7 月 3 日、名古屋)

15) 津元裕樹、田口 良、幸田光復、宮田直樹

質量分析を用いたタンパク質の同定と相対的定量のための N 末端修飾試薬の開発
名古屋大学 COE プログラム第 2 回有機化学若手研究会 (2004 年 11 月 26 日、名古屋)

16) Hiroki Tsumoto, Katsumasa Takahashi, Kohfuku Kohda, Takayoshi Suzuki, Hidehiko Nakagawa and Naoki Miyata

Synthesis of primary and secondary amine labeling reagents containing C60 moiety for

MALDI-TOF MS analysis.

第 28 回フラーレン・ナノチューブ総合シンポジウム (2005 年 1 月 8 日、名古屋)

17) 高橋克昌、津元裕樹、幸田光復、鈴木孝禎、中川秀彦、宮田直樹

ペプチドの MALDI-TOF MS 分析のためのフラーレン導入試薬の合成と有用性の評価

日本薬学会第 125 年会 (2005 年 3 月 31 日、東京)

18) 松本光司、鈴木孝禎、中川秀彦、幸田光復、宮田直樹

C60 の磁気異方性効果

第 31 回反応と合成の進歩シンポジウム (2005 年 11 月 7 日、神戸)

19) 津元裕樹、高橋克昌、幸田光復、鈴木孝禎、中川秀彦、宮田直樹

MALDI-TOF MS 分析に利用できる C60 誘導体化試薬の合成

第 31 回反応と合成の進歩シンポジウム (2005 年 11 月 7 日、神戸)

20) 高橋克昌、津元裕樹、幸田光復、鈴木孝禎、中川秀彦、宮田直樹

C60 誘導体化試薬の MALDI-TOF MS 分析への応用

第 31 回反応と合成の進歩シンポジウム (2005 年 11 月 7 日、神戸)

21) Hiroki Tsumoto, Katsumasa Takahashi, Kohfuku Kohda, Takayoshi Suzuki, Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata

Application of C60-based amine-labeling reagents to MALDI-TOF MS analysis.

第 30 回記念フラーレン・ナノチューブ総合シンポジウム (2006 年 1 月 8 日、名古屋)

22) Syo Kawahara, Yuki Fujisawa, Hiroki Tsumoto, Kohfuku Kohda, Takayoshi Suzuki, Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata

Promoting effect of water-soluble fullerene derivatives on growth of neurites of PC-12 cells that were differentiated by nerve growth factor.

第 30 回記念フラーレン・ナノチューブ総合シンポジウム (2006 年 1 月 9 日、名古屋)

23) 津元裕樹、高橋克昌、幸田光復、鈴木孝禎、中川秀彦、宮田直樹

フラーレン C60 の特性を利用したタンパク質の MALDI-TOF MS 分析

日本薬学会第 126 年会 (2006 年 3 月 28 日、仙台)

24) 川原翔、藤澤祐樹、津元裕樹、幸田光復、鈴木孝禎、中川秀彦、宮田直樹

PC-12 細胞の神経突起伸長に対する水溶性フラーレン誘導体の増強作用

日本薬学会第 126 年会（2006 年 3 月 30 日、仙台）

25) 李愛英、海老塚豊、市瀬浩志

ベンゾイソクロマンキノン(BIQ)抗生物質の生合成研究 (23)

-立体制御に関わるメダマイシン生合成遺伝子の機能解析-

日本放線菌学会 2004 年度大会（2004 年 7 月 1 日、淡路）

26) 伊藤崇敬、田口貴章、海老塚豊、市瀬浩志

ベンゾイソクロマンキノン(BIQ)抗生物質の生合成研究(22)-actVI-ORF1 遺伝子産物による合成

アナログ基質の立体特異的還元-

日本放線菌学会 2004 年度大会（2004 年 7 月 1 日、淡路）

27) 市瀬浩志、Dirk Hoffmeister、Clemens Duerr、Gerald Draeger、Juergen Rohr、Andreas Bechthold

Urdamycin 生合成に関与するデオキシ糖生成酵素群の機能開拓

第 46 回天然有機化合物討論会（2004 年 10 月 6 日、広島）

28) 田口貴章、市瀬浩志、花尻瑠理、合田幸広

ハマメリスヨウのタンニン関連成分の分析

日本生薬学会第 52 回年会（2005 年 9 月 17 日、金沢）

29) 橋元 誠、田口貴章、市瀬浩志

天然デオキシ糖類の生合成 (4)

-メダマイシンのデオキシアミノ糖生合成遺伝子の機能解析-

日本農芸化学会 2006 年大会（2006 年 3 月 27 日、京都）

30) 伊藤崇敬、田口貴章、海老塚豊、市瀬浩志

ベンゾイソクロマンキノン(BIQ)系抗生物質の生合成研究(26)- actVI-ORF1 遺伝子産物 RED1 の精製と酵素学的解析-

日本薬学会第 126 年会（2006 年 3 月 29 日、仙台）

31) 田口貴章、市瀬浩志、Andriy Luzhetskyy, Andreas Bechthold

抗腫瘍活性ポリケタイド・ランドマイシン A の生合成研究

日本薬学会第 126 年会（2006 年 3 月 30 日、仙台）

32) 中嶋弘、原薫、小林正、鈴木巨、油田正樹

メタボリックシンドロームのモデルとしての TSOD マウスの再評価

高尿酸血症・メタボリックシンドロームリサーチフォーラム研究集会（第1回）（2005年8月6日、大阪）

33) 工藤敏之、嶋田努、鈴木亘、永田光信、竹田秀一、杉山清、油田正樹

メタボリックシンドロームに対する防風通聖散の効果

日本薬学会 126 年会（2006 年 3 月 28-30 日、仙台）

34) 嶋田努、鈴木亘、工藤敏之、永田光信、竹田秀一、油田正樹

新規メタボリックシンドロームモデルマウス"TSOD"の有用性の検討

日本薬学会 126 年会（2006 年 3 月 28-30 日、仙台）

35) 西田智、黒川健児、松尾美記、上野孝治、関水和久

UDP-acetylenolpyruvylglucosamine reductase (MurB) の活性に必須なアミノ酸残基の機能

第 78 回日本生化学会年会（2005 年 10 月 20 日、神戸）

36) 藤本大喜、阿部和穂、三澤美和

Basolateral amygdala dopaminergic activity modulates the induction of long-term potentiation in the dentate gyrus of anesthetized rats.

Pharmaceutical Sciences World Congress 2004/第2回世界薬学会議（2004年5月31日、京都）

37) 藤本大喜、新倉義章、阿部和穂、三澤美和

扁桃体基底外側核ドパミン D2 受容体を介した海馬長期増強の調節

第 110 回日本薬理学会関東部会（2004 年 6 月 5 日、静岡）

38) 藤本大喜、新倉義章、阿部和穂、三澤美和

扁桃体基底外側核-海馬歯状回シナプスの長期増強におけるドパミン D2 受容体と GABAA 受容体の関与

第 111 回日本薬理学会関東部会（2004 年 10 月 23 日、つくば）

39) 阿部和穂、新倉義章、三澤美和

麻酔ラット扁桃体基底外側核-海馬歯状回シナプスの長期増強における L 型 Ca²⁺チャネルと Ca²⁺/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼ II の関与

第 78 回日本薬理学会年会（2005 年 3 月 22 日、横浜）

40) 藤本大喜、阿部和穂、三澤美和

麻酔ラット歯状回の長期増強における扁桃体基底外側核セロトニン 5-HT_{2C} 受容体の関与

第 78 回日本薬理学会年会 (2005 年 3 月 22 日、横浜)

41) 赤石樹泰、Pamela Maher、阿部和穂

ラット海馬 CA1 野における長期増強およびマウスの再認記憶に対するフィセチンの促進効果

第 79 回日本薬理学会年会 (2006 年 3 月 9 日、横浜)

42) Kawaguchi, M., Scott, K.A., Moran, T.H., Bi, S.

Dorsomedial hypothalamic corticotrophin-releasing factor (CRF) mediation of exercise-induced anorexia.

第 28 回日本神経科学大会 (2005 年 7 月 28 日、横浜)

43) Morohoshi, K., Kawaguchi, M., Saita, E., Watanabe, G., Taya, K., Himi, T., Yamamoto, H., Kondo, T., Takano, H., Morita, M., Imai, H.

The effects of intrauterine and lactational exposure to pentachlorophenol on rat pups (2)

日本内分泌かく乱化学物質学会第 8 回研究発表会 (2005 年 9 月 29 日、東京)

44) Morohoshi, K., Kawaguchi, M., Takano, H., Morita, M., Yamamoto, H., Kondo, T., Himi, T., Imai, H.

Effects of exposure to pentachlorophenol during gestation and lactation on neuro-endocrine system in rats.

The Society for Environmental Toxicology and Chemistry North America 26th Annual Meeting (2005 年 11 月 15 日、Baltimore, USA)

45) 川口真以子、諸星佳織、入江かをる、福田淳志、渡辺元、田谷一善、森田昌敏、氷見敏行、今井秀樹

エストロゲン様化学物質 iso-butyl-paraben の経世代影響

日本薬学会第 126 年会 (2006 年 3 月 28 日、仙台)

46) 山下直美、大田健

肺の炎症と細胞応答、その制御 アレルギー炎症とその制御

第 45 回日本呼吸器学会学術講演会 (平成 17 年 4 月、千葉)

47) 田下浩之、山下直美、石田博之、松尾由紀子、長瀬洋之、足立哲也、中野純一、大田 健

喫煙曝露とエラストラーゼ併用による肺気腫モデルの解析

第 25 回日本炎症・再生医学会 (平成 17 年 7 月、東京)

48) 吉浦健太、小柳津直樹、大海忍、山下直秀

腫瘍血管関連抗原としての carbonic anhydrase II の同定

第 64 回日本癌学会学術総会（ワークショップ、平成 17 年 9 月、札幌）

49) 大谷政博、Maryna Badyuk、Yingxian Xiao、Kenneth J. Keller、John W. Daly、岡孝己 脾臓 β 細胞におけるニコチン性アセチルコリンレセプターの発現とその細胞内カルシウム濃度増大及びインスリン分泌促進作用

日本薬学会第 126 年会（2006 年 3 月 28 日、仙台）

50) 三膳良樹、仲澤幹雄、河田登美枝、佐藤博

心エコーによるラット心機能の評価

第 79 回日本薬理学会年会（2006 年 3 月 9 日、横浜）

51) Ikemoto, M., Yuasa, K., Yoshimura, M., Nishiyama, A., Miyagoe-Suzuki, Y., Howell, J.M. and Takeda, S.

An AAV vector-mediated gene transfer into canine skeletal muscle.

8th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (June 1-5, 2005, St. Louis, USA)

52) Yuasa, K., Yoshimura, M., Nishiyama, A., Ikemoto, M., Ohshima, S., Miyagoe-Suzuki, Y., Howell, J.M., Hijikata, T. and Takeda, S.

AAV vector-mediated gene transfer into canine skeletal muscle.

第 11 回日本遺伝子治療学会（平成 17 年 7 月 28~30 日、東京）

53) 土方貴雄、湯浅勝敏、武田伸一

デュシェンヌ筋ジストロフィーの分子病態の解析 - mdx マウスと筋ジストロフィー犬の比較検討 -

第 111 回日本解剖学会総会（平成 18 年 3 月 29~31 日、神奈川）

54) 湯浅勝敏、中村昭則、武田伸一、土方貴雄

筋ジストロフィーの分子病態の解明 - mdx マウスと筋ジストロフィー犬の比較検討 -

日本薬学会第 126 年会（平成 18 年 3 月 28~30 日、仙台）

55) Yuasa, K., Yoshimura, M., Nishiyama, A., Ikemoto, M., Miyagoe-Suzuki, Y., Howell, J.M., Takeda, S.

AAV vector-mediated gene transfer into canine skeletal muscle.

The 4th Annual Scientific Meeting of Asian Oceanian Myology Center (March 3-4, 2005, Kaohsiung, Taiwan)

56) Hijikata, T., Yorifuji, H.

Molecular organization of intermediate filament networks preventing muscle fibers from degeneration.

(In Symposium) 16th International Congress of the IFAA (August 22-27, 2004; Kyoto)

57) Makoto Otsuka, Kuniko Otsuka,

Bone Regeneration by using Drug Delivery System Technology and Apatite Intelligent Materials

International Symposium of Maxillofacial & Oral Regenerative Biology in Okayama 2005 (招待講演、2005年9月19日、岡山)

58) 國正淳一、新迫恵子、奥井康文、松田康孝、大塚誠

塩酸バンコマイシン含有セメントペース充填術によりバンコマイシン血中濃度が高値となる可能性とその検討

第15回日本医療薬学会年会 (2005年10月1日、岡山)

59) 大塚誠、徳留嘉寛、伊藤敦夫、Racquel Z. LeGeros

老年性骨粗しょう症抑制効果を持つ生体必須微量金属徐放性アパタイト関連化合物から成る懸濁注射液

第27回日本バイオマテリアル学会 (2005年11月28日、京都)

60) 高田和之、松田芳久、屋鋪哲也、伊藤敦夫、大串始、大塚誠

ラット骨髄間葉系幹細胞の分化誘導が自己硬化アパタイトセメント上での細胞活性に与える影響

第27回日本バイオマテリアル学会 (2005年11月29日、京都)

61) Makoto Otsuka, Ayako Oshinbe, Atsuo Ito, Kuniko Otsuka, William I. Higuchi, Racquel Z. LeGeros

The therapeutic effect of selected biomaterials (Mg/Zn/F-BCP materials administered by injection) in an ovariectomized rat model by assessing bone properties

Bioceramacis 18 (2005年12月7日、京都)

62) 徳留 嘉寛、忍海辺 綾子、伊藤 敦夫、R.Z. LeGeros、大塚 誠

新規微量金属イオン含有リン酸三カルシウムの骨形成促進効果

第5回日本再生医療学会 (2006年3月8日、岡山)

63) 徳留 嘉寛、伊藤 敦夫、R.Z. LeGeros、大塚 誠

骨粗しょう症治療薬の薬効評価におけるX線CTの有用性検討～亜鉛含有新規バイオマテリアルを用いた検討～

日本薬学会第126年会 (2006年3月28日、仙台)